

はるかな友 100 年の絆 日本とアルゼンチン いま新しい時代

会 報

新年号 '98 (第 19 号)

1998. 1. 16 発行

謹 賀 新 年

1998 年正月

社団法人 日本アルゼンチン協会
役員一同



アルゼンチン大使金賞 茨城県境町立長田小学校 関 真理奈

目 次

新年ご挨拶 2

斎藤 英四郎 会長

小渕 恵三 外務大臣

サンチス 駐日アルゼンチン大使

特集：1 日本アルゼンチン修好 100 周年記念事業組織委員会設立 5

：2 日ア関係の 100 年を振り返る

アルゼンチン政治・経済速報 8

博物学者、文学作家 ウィリアム・ハドソンと日本との関係 10

—ハドソン家とシンヤ家— (2)

日本アルゼンチン友好 100 周年記念絵画コンクール 13

会員よりの寄稿

文化行事 15

お知らせ 17

人事往来

社団法人 日本アルゼンチン協会

発行人 野村 秀治 編集人 渡部 透

〒100-0011 東京都千代田区内幸町 1-2-2 日比谷ダイビル

電話 (3501) 4684 FAX (3595) 3932

新 年 ご 挨 捭

○ 斎 藤 英四郎 会長



私達メンバーにとって、たいへん意義ふかい年、
1998年が明けました。

みなさん、おめでとうございます。

二つの意味で今年は、私達には意義ある重要な年になります。

一つは100年に一度しか訪れない好機にめぐりあわせたことです。100年まえの2月3日、ワシントンにおいて日本とアルゼンチンが友好通商航海条約を結びました。その100周年記念を両国で、官民あげてお祝いしようと多くの行事が計画されています。

もう一つは、日本とアルゼンチンの関係がきわめて緊密になり、新しい時代が始まることです。

過去100年の歴史の中でわが国とアルゼンチンは、他の国ではみられない特別な友好関係がありました。しかし昨年6月の天皇・皇后両陛下のご訪アをはじめ、今年はメネム大統領のご来日、宮様のご訪アに象徴される両国間の人的交流の進展、メルコスールを軸としたアルゼンチン経済の正常化を反映した両国間通商の拡大と、両国関係がまったく新しい時代に向かって歩みだす年になります。

こうした動きにさらにダイナミズムを付加するため、当協会は日ア修好100周年記念という国家的事業に協力して来る8月、臨界副都心で「アルゼンチン・フェスティバル（仮称）」というイベントの開催を計画しています。

みなさん、この特別な意義ある年を実り多いものにするために、引き続きご理解とご協力を賜りますようここに改めてお願いいいたします。

最後に、協会の皆様方の益々のご発展とご健康をお祈り申し上げ、100周年の新年のご挨拶とさせていただきます。

○ 小渕 恵三 外務大臣

新年に際し、日頃我が国とアルゼンチンの間の交流促進に尽力されている日本アルゼンチン協会の皆様に御挨拶申し上げます。

本年は、日本とアルゼンチンの間で修好通商航海条約が署名されて100周年を迎えます。両国は、この100年間、お互い地球の反対側の遙か離れた国であるにもかかわらず、固い友情を培ってきました。そして今、両国においては、この修好100周年を盛大に祝い、もって新たな友好と協力の100年の幕開けとすべく、様々な記念事業が進められています。



我が国においては、昨年11月に、官民の総意を受ける形で、諸橋日ア経済委員会会長・三菱商事株式会社会長を長とする「日本アルゼンチン修好100周年記念事業組織委員会」が発足し、各界の幅広い参加を得て記念事業の準備が進められています。

私は、かねてより中南米の国々とは親しくさせていただいておりますが、とりわけアルゼンチンとは深い縁があり、現在も友好議員連盟の会長を務めさせていただいております。そこで私も、この修好100周年が両国関係の一層の発展につながるよう微力ながら尽くしたいと思い、組織委員会の名誉委員長をお引き受けしたところであります。

今後我が国政府としても、修好100周年という日・アルゼンチン関係発展の機運を活かし、両国間の様々な分野で交流と相互理解が進むよう、努力して行きたいと考えております。

最後に、日本アルゼンチン協会の皆様の一層のご発展と日ア友好関係の増進を心からお祈りして、私の年頭の御挨拶とさせていただきます。

○ サンチス駐日アルゼンチン大使

1898年に日本とアルゼンチン両国間で署名された“修好、通商、航海条約”が来る2月3日に100周年を迎えます。同条約の第一条に“アルゼンチン共和国と日本帝国並びに両国民の間に永久かつ強固な友好が存在する”旨記述されています。その署名日以来、永続的な友好が共通の目的達成のため、円熟したすばらしい相互関係を構築しております。それが、1998年の100周年を機会に両国政府及び国民が重要な記念行事を実施することになったのです。



日本において実施される記念行事には、儀礼、経済－商業、文化、学術及びスポーツの分野が含まれています。政府高官の訪問からアルゼンチン輸出産品の見本市、高水準の文化展、古典、タンゴ及びフォルクロール演奏会並びにアルゼンチン恐竜展までの全ての行事を通じて我々の国を日本国民が尚一層知る上でお役に立つと思います。

相互理解と協力関係は途切れる事なく進展しております。地理的距離は、今や両国にとって障害となっておらず、すでに100年前から親密な関係にあり、今後とも尚一層相互理解を深め、継続できる事を確信するものであります。

新年にあたり、日本アルゼンチン協会の会員皆様にとって1998年がより幸運な年であることを願って私のご挨拶とします。

事務局からのお願い

「個人正会員および個人賛助会員」募集

個人会員制度の概要は次のとおりです。

- | | |
|---------------------------|--------------|
| ①☆正会員（定款上総会の構成員。議決権有り） | 年会費 ¥ 10,000 |
| ☆賛助会員（定款上総会には非構成員。議決権なし。） | |
| その他は原則として正会員に準ずる） | 年会費 ¥ 5,000 |
- ②会報：当協会の発行する「会報」を年4回お届け（無料）することにより、日ア間の最新情報を政治、経済、文化などに亘って提供します。
- ③文化活動ないし演奏会などの催物のご案内、割引案内を行い、ご希望の分野にご参加（実費徴収）いただきます。
- ④定例総会のほか「親睦会」を開催し会員相互および在京大使館との交流を計ります。アルゼンチンに関心の深いご友人、関係先の方々を、是非ともご勧誘ください。事務局にご一報あれば加入申込書を、ご本人あて郵送いたします。
- ⑤郵便局振込口座 00120-6-581381 ⑥第一勧銀本店 普通001-4489193

特集: 1. 日本アルゼンチン修好100周年記念事業組織委員会設立

斎木茂治

本年は、1898年（明治31年）2月3日ワシントンにおいて「日ア修好通商航海条約」が署名されてから100周年に当たり、これを記念して、日ア双方において記念事業が実施されます。

記念事業の計画、立案・実施に当たり、日本では、昨年11月に官民の幅広い協力体制による「日本アルゼンチン修好100周年記念事業組織委員会」が設立されました。

本委員会は名誉委員長に 小渕外務大臣、委員長に諸橋日亞経済委員会会长・三菱商事(株)会長、特別顧問に土屋全国知事会会長・海外日経協会会长、名誉顧問にサンチス・ムニヨス駐日アルゼンチン大使、顧問に日商・東商をはじめとする経済4団体並びに日本貿易会、(社)日本アルゼンチン協会の計6団体の長を迎へ、委員として政府関係、経済界、地方自治体のみならず、文化、学術、スポーツ、報道等の幅広い分野からアルゼンチンに縁の深い関係者100名以上のご参加をいただき構成されてます。

本記念事業の主たる行事としては、2月3日の両国首脳メッセージ交換を皮切りに、両国における記念式典の挙行、記念切手・記念誌の発行等の公式行事をはじめとして、数々の行事が次のとおり着々具体化しつつあり、今やそのスタートを待つばかりとなつております。

私ども組織委員会は本記念事業を成功裡に実施すべく全力を傾注する所存でございますので、(社)日本アルゼンチン協会会員の皆様におかれましても団体、個人を問はず、何分のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

日本側事業（於日本予定）

1 公式行事

- 日本アルゼンチン修好100周年記念式典
- 日本側要人のアルゼンチン訪問
- 橋本首相の記念メッセージ交換
(2月3日（火）新聞紙上)
- 記念切手発行

2 経済関係行事

- 林業、鉱業向投資誘致、環境・自然保護関係各セミナー
- アルゼンチン輸出物産展
- 日ア二カ国関係セミナー

アルゼンチン側事業（於ア国予定）

- 日本アルゼンチン修好100周年記念式典
- アルゼンチン側要人の訪日
- メネム大統領の記念メッセージ交換
(2月3日（火）同)
- 記念切手発行

- 第19回日亞経済合同委員会会議
- 環境・自然保護関係セミナー
- 貿易・投資セミナー（於日本）
- 第6回ア日通商技術文化交流見本市

3 文化行事

- 「日本アルゼンチン交流史」刊行
アルゼンチン・フェスティバル（仮称）
琴のアンサンブル公演（於ア国10月）
琉球舞踊公演（於ア国）
フルート・オーケストラ公演（於ア国8月）
能楽公演（於ア国6月）
書道展（於ア国）
インターネット・ホームページ開設（2月）
- 日ア関係史」発行（於日ア双方）
タンゴ・フルクローレ公演
第30回日本歌謡祭
ア国国立交響楽団演奏会（於日本5月）
アルゼンチン恐竜展（於日本7月&11月）
日本文化週間（11月）
アルゼンチン版画展（於日本）
インターネット・ホームページ開設

4 スポーツ行事

サッカー交流

競馬「アルゼンチン共和国杯」（11月）

サッカー交流

合気道エキシビジョン（1月）

5 その他

にっぽん丸船上パーティー（於ア国6月9日）

自衛隊練習艦隊のアルゼンチン訪問

アルゼンチン・フード・フェスティバル（於日本）

生け花展、蘭展示会、刺繍展

（日本アルゼンチン修好100周年記念事業組織委員会事務局長）

特集：2.日ア関係の100年を振り返る

◎七つの象徴的な出来事

野村秀治

「日本とアルゼンチンの関係は、特別だ」と読者の間ではよく指摘される。数多くの国があるなかで、たしかに両国の友好関係は濃厚だ。過去100年の歴史のなかで、とくに象徴的と思われる七つの出来事をまとめてみた。

① 日露戦争のとき、最新装甲巡洋艦2隻（モレノ、リバダビア）をわが国に譲渡してくれ、日本海海戦で、日本海軍の戦艦（日進、春日）として活躍、大勝利に貢献した。

1904（明治37）年ロシア・バルチック艦隊を迎撃し日本に、自国の軍艦を譲渡してくれる国はどこもなかった。ロシア帝国の威力を恐れていたからだ。ひとりアルゼンチンだけが、イタリアで建造中のハイテク軍艦をわが国に譲ってくれた。1905年、数少ない戦艦のうち2隻を触雷で失った日本海軍は、この新鋭艦2隻を戦艦として組み入れ、日進は旗艦三笠とならぶ重要な役割である殿艦を務め、大いに活躍した。

② 大正以来、わが国からの移住者の受け入れ国として、特別な関係。アルゼンチンの日系人は現在32,000人。ブラジル、アメリカ、ペルーについて4番目の人口。

戦前の移住者は花卉栽培が主な職業であったが、いまは政府、軍部、大学ほか主要な職業についている。長年にわたる彼らの勤勉な態度、教育熱心な姿勢はアルゼンチ

ン人一般的日本人へのイメージ・アップに資すること大きく、両国貿易の進展、現地への進出企業への助けになっている。戦後、米国領であった沖縄からの移住は、本国からの移住にさきがけて実施されたため、沖縄出身者が多いのが特徴。

- ③ 前大戦のさい、アルゼンチンは欧米、南米各国からの圧力にもかかわらず、日本に対し中立を保ち、国交を断絶したのは終戦のわずか5ヶ月前の3月だった。

イスス、スエーデン、ポルトガルとともに中立を保ち、ブエノスアイレスは交戦国間の情報合戦の舞台になったという。断絶後も在留邦人への扱いは北米、南米他国と異なり、かなり緩やかで友好的だった。

- ④ 戦後の荒廃した食料不足の日本へ、エバ・ペロン財団は大量の小麦を、在留邦人が拠出した衣料とともに自国船に船積みして贈ってくれた。

第一船リオ・アグアペイ号は1950年5月、横浜に入港した。神奈川県内山知事、大阪商船伊藤社長、東京外語大スペイン語生ほか多数の関係者が出迎えた。本線に掲げられた日の丸の旗を米軍憲兵が占領下であるため降ろすよう要求したが、マトビッチ船長は断固として拒否した。戦後、初めて屋外に翻った日の丸をみて、横浜市民は涙した由。

エバ財団はこのほかにも自国船、オランダ船で援助物資をわが国に送り続けた。

- ⑤ 1950年11月、アルゼンチンの強力な工作により、連合軍総司令部から大阪商船に南米東岸むけの航路開設の許可がおりた。戦後、わが国の定期航路再開の第一船。

敗戦後、日本海運の外航航路の開設は総司令部により一切禁止されていた。日本とアルゼンチン、ブラジルとの通商が増大し、自国船による航路再開が悲願となつた。しかし、戦勝国海運は日本船の航路再開を阻止し、総司令部の許可がおりなかつた。アルゼンチンは総司令部の Civil Transportation Section (CTS) に強力に働きかけ、とくに植民地を失つたオランダの執拗な反対を押し切り認可にいたつた。

- ⑥ タンゴ人口は、母国アルゼンチン以外では日本が世界で最も多い国のひとつ（英テムズ・ハドソン社版、タンゴ P.17 参照）。近年、ダンスとともにタンゴ・ブルームの再来。

日本にタンゴを初めて紹介したのは日賀田男爵、1927年代にパリから持ち帰つたもの。1930年代には早くも日本に多くのタンゴ・バンドが結成された。1953年、藤沢嵐子が早川真平とアルゼンチンで公演し好評を博した。アルゼンチンからは1954年、ファン・カナロとその楽団が来日しその後、本格的なダンスと共に頻繁な交流が続いている。

- ⑦ 日本が2002年のワールド・カップ開催国として立候補したとき、アルゼンチンは、各国に先駆けて日本支持を表明した。本予選で、日本の最初の相手はアルゼンチン

ワールド・カップ開催をめぐって韓国と競っていたとき、アルゼンチンはディ・テラ外相訪日の際、日本支持を表明し南米票4票の見通しも伝え、わが国を勇気づけてくれた。激しい獲得運動の最中、他国の先駆けた正式表明だけに、全国ニュースとなつた。そのアルゼンチンに日本チームは、Wカップ予選の第一戦で胸を借りることとなつた。

(当協会専務理事)

◎「大来レポート」

斎木茂治

「大来レポート」とは、当時、内外政策研究会会長（元外務大臣）であられた大来佐武郎先生に率いられた（財）国際開発センターのメンバーを主体とするチームが1985年からアルゼンチン政府の要望を受け、国際協力事業団（JICA）のODAベース技術協力の一環としてアルゼンチン経済開発調査を実施、1987年に提出したレポートの通称であります。

本レポートはア国の産業活性化と輸出振興に重点を置き、アルゼンチンの経済発展に関する基本的助言を与えるものとして高く評価され、時のアルフォンシン政権の「1987－1989年経済成長戦略ガイドライン」の主要政策に採用されましたが、さらに、1989年に発足したメヌム政権でも、カバーロ経済大臣が本レポートを再評価し、同政権のアルゼンチン経済復興の基本方針としても活用され、大来先生は同政権より叙勲を受けられました。

日亜100年の交流の歴史の中で、日本は「日露戦争で戦艦日進・春日を譲り受けたり、第2次大戦後の混乱期に食料・物資の援助を受け、“借り”があった訳ですが、この「大来レポート」により大いに日本のプレゼンスが高まり、“借り”的一部が返せた」といっても過言ではないと確信する次第です。

(大来財団日本評議委員会事務局長)

アルゼンチン政治・経済速報

小林晋一郎

◎政治・経済

○ 昨年10月26日の選挙で下院の半数127議席が改選された。今回の選挙では野党の急進党とフレパソは野党連合を結成（実際には24選挙区中14の選挙区で連合が成立）、現政府の汚職体質と失業問題を掲げて選挙運動を展開してきた。選挙結果は与党ペロン党の敗北でペロン党の51議席に対し、野党連合は61議席を獲得した。この結果、12月10日より下院257議席の政党別議席数はペロン党118、野党連合110、

- 110、その他29となりペロン党は過半数を割る事となった。
- 10月23日の香港株式の暴落は全世界の証券市場に波及、ブエノスアイレス株式市場でも株価が急落した。株価指数メルバルは10月22日の862.59から11月12日には最安値576.32を記録した後、上昇に転じたが12月12日653.29と未だ10月22日の水準を回復していない。銀行預金は一部ペソ預金からドル預金へのシフトが見られたが、銀行システムはアジアの通貨危機や香港の株価暴落の影響を受けず全国預金残高は過去最高までに積み上がっている。
 - 中銀によるペソ買い支えの為に外貨準備を使用したことから、政府はIMFから30億ドルの緊急融資枠を取得し緊急事態に備える事にした。
 - 香港株価急落の影響を強く受けたブラジルは中銀基準金利を年利21%から43%へ引き上げた。金融政策では不十分と判断したブラジル政府は11月10日、増税、公務員削減、公共料金の引き上げなどを柱とする51項目にわたる財政緊縮政策を発表した。この措置による政府の增收効果は200億レアル（GDPの2.5%）に達すると言われている。
 - この緊縮政策によるブラジルの大幅な景気後退がメルコスルを通じて経済統合が進んでいるアルゼンチン経済に大きな影響を与えることが懸念されている。農産品や工業製品の対ブラジル輸出の減少、自動車各社の投資計画見直しなどが経済成長率を下押しすると思われる。また、メルコスルの対外共通関税の最高税率を20%から23%へ引き上げる事が決められた。
 - 民営化すべきか国立銀行として残しておくべきか長く議論されていたアルゼンチン国立商業銀行ナシオン銀行の民営化方針が公表された。
 - また、33空港の民営化を大統領令で決めた事が憲法に違反すると争われていたが、最終的に合意との判断がなされ空港民営化が前進する事になった。現在、4つのグループが空港民営化に入札する予定である。
 - クリントン米大統領が10月15日から3日間にわたりアルゼンチンを訪問、ブエノスアイレスとバリロチェに滞在した。これはクリントン政権下での初めての米大統領の訪問である。クリントン大統領はメネム大統領に対しアルゼンチンを「NATO非加盟の主要同盟国」に認定する旨伝えた。また、米州での民主化促進、米州自由貿易圏の創設に向けての交渉開始などが両首脳間で話された。
 - 政府はIMFと期間3年、金額28億ドルの拡大信用枠（Extended Fund Facility）の交渉をしているがIMFへのインテンション・レターの内容の一部が明らかになった。

IMFの条件は銀行の流動性準備率の20%への引き上げ、98年の新規海外資金調達額限度57億ドル、98年の財政赤字35億ペソ、98年の経常収支赤字131億ドル（GDPの3.8%）、政府歳出の対GDP比率を97年の12.3%から98年は11.8%、2000年には10.5%への引き上げ、民営化の促進、税制改革、医療保証制度改革などとな

っている。

- 97年10月の失業率が5月の16.1%より2.4%減少し13.7%となった。過去最高の失業率は95年5月の18.4%である。
- アルゼンチンはアジア通貨危機以後、エマージング・マーケットによる最初の起債国となった。金額5億ドル（当初の予定は3億ドル）の証券発行で上乗せ金利を定期的に見直す新しい型の起債である。
- 政府は7年連続で期限内に政府予算案を提出した。98年の予算と97年の予想を対比して示せば次の通り。（単位：億ペソ）

	97年	98年
(1) 一般歳入	411	439
(2) 一般歳出	422	443
(3) 資本的収入	7	13
(4) 資本的支出	41	44
(5) 歳入合計(1)+(3)	418	452
(6) 歳出合計(2)+(4)	463	487
(7) 収入 (5)-(6)	-45	-35

（東銀リサーチインターナショナル理事）

博物学者、文学作家ウイリアム・ハドソンと日本との関係 —ハドソン家とシンヤ家—

佐藤幸正

2 シンヤのその後

唐津の15の少年が軍艦でアルゼンチンに渡り、ハドソンの姪と結婚するまでの経緯については前述の通りであるが、なぜ彼が母国を後にしたのか、あるいは日本からどこを経由して渡ったのかなどについては、新たな資料に依らねばならない。賀集九平著『アルゼンチン同胞五十年史』はこの間の事情を次のように述べている。

人生五十年と云われているが、五十年は半世紀であり、五昔である、この五昔の長い間、アルゼンチンで日夜奮闘努力、在亜日本人社会の基礎をかためられた先駆者中の先駆者、榛葉賛雄氏はアルゼンチン国に正式入国者としての第一人者である。氏は明治17年10月8日（1884年）佐賀県唐津町で生れた。県立中学校に通学して居た少年の頃、養子に懇望されたのを断ったのが因で学資を断たれ、遂に奮闘して長崎に走った。祖国日本において漸く海外渡航熱がたかまりつつあった頃なので、氏の脳中には勃々たる海外発展の壯図が燃えていたのである。時恰も日本を訪れていた亜国練習艦サルミエント号が長崎に寄港していた。艦長オノフレ・ベト

(Capitan de Navio Onofre Betveder) が日本人ボーイを求めてある由を伝え聞いた氏は、欣然として自ら艦長を訪れ臆する色もなくボーイ志願の旨を述べたところ、早速採用されることになったのである。同艦に搭乗、アジア、欧州並びに北米の各港に寄港し、最後にニューヨーク港、リオ・デ・ジャネイロ港をへて、1900年（明治33年）9月30日亜国パンパスクルスの新緑の香り高い早春、憧れのブエノス・アイレス港に到着したのである。時に氏が満16歳の少年であった。英語と西語に幾分通ずる日本少年の来亜のこととて、ブエノス市民は好遇し歓待した。今日世界有数の大都ブエノス・アイレス市も50幾年以前は僅か100万人足らずの小都市に過ぎず、交通機関はほとんど馬車で、電車の如きも中央区からベルグラノ行とフローレス行があっただけである。まだパセオ・コロンより港に至る一帯の地は当時尚ラ・プラタ河の水際であったとのことである。

この資料によれば、ウエストが綴ったYoshio Shinya (Japanese) とは日本人名榛葉賛雄のことであり、また彼は正式にアルゼンチンに足を踏み入れた最初の日本人であった。かれがアルゼンチンに渡った直接の動機は「養子に懇望されたのを断ったのが因」ということになる。渡航経路については、日本からアルゼンチンに直行したのではなく、欧州及び北米を経由してブエノス・アイレスに入港したのである。

1900年、ブエノス・アイレスに到着した彼は、向学心に燃え、働きながら勉強を続ける。その様子を賀集九平氏は次のように述べている。

ブエノス市の人となった氏は艦長宅にある事数カ月、1901年2月日本商品直輸入商アメリカン・ツレーディング商館 (American Trading Co.) の事務員となって勤めるかたわら、中学校に通学して勉強した。7年間同商館に勤め、中学校卒業後ブエノス・アイレス法科大学に進んだが4年時退学した。後独立して貿易商を経営し、亜国産のケブラッチョのエキスを日本に輸出し、日本から絹物類、陶器類、玩具類等の輸入を計ったが、事志しと違って中止せざるを得なくなった。そして海軍省属官となり、藤崎商会、松浦商会、川崎造船所等の支店長として転々とする内、一英系婦人と結婚したが、数年にして死別し、1921年7月17日亜国人であるデリア嬢と再婚されたのである。

「一英系婦人と結婚したが、数年にして死別」とあるのはハドソンの姪ローラのことであり、ヴィオレッタの母のことを示す。かつては夫と一緒に日本を訪れ、ロンドンではハドソンに面会したローラは、幼いヴィオレッタを残してこの世を去るのである。「ハドソン年譜」によると、時に1915年、ハドソン74歳であった。ハドソンは「メリーの娘ラウラの死の通知を受け、メリーに長文の慰めの手紙を送る」のである。この年ハドソンはコーンウォールのルレントに滞在し、『はるかな国・遠い

昔』の構想を練り、セント・ミカエル病院に入院中、執筆を始めている。その執筆は1918年に完成を見、Far Away and Long Agoと題し、公刊される。そこには二度と帰国することのなかった故国アルゼンチンに対する思い出が散見され、自伝的要素の濃いエッセイとなっている。だが1919年、ハドソンにとって不幸なことに、姪に続き今度は妹メアリーが亡くなるのである。従って、メアリーの子孫でハドソンと血縁関係にあるのはヴィオレッタのみとなった。

ヨシオ・シンヤのその後の社会における活動と、日本との関係について理解を深めるために、更に引用を続ける。

在亜日本人会創立に当たっての第一人者であり、1927年度衆望を担って在亜日本人会長に当選、在亜邦人社会向上発展に尽された功績は顕著である。また日亜文化協会の創立者であり、1940年祖国日本の紀元2600年祭に当たっては、日本の国際文化振興会の招聘により、日本文化協会使節として帰朝せられ、日亜文化の交流のため活躍せられた。氏は西語の権威者であるのみならず、日本語の文筆をよくし、東京国民新聞社の通信員となり、最後に東京報知新聞社の通信員をして居られた。当亜国ではラ・プレンサ紙、ラ・ナシオン紙、エル・ムンド紙、エル・ディアリオ紙等の新聞によく論説を発表したものである。また日本紹介の著書も多く、中でも(1) Imperio de Sol Naciente, (2) Ideal del Japón 等が有名である。終戦後はエル・ムンド社の記者として健筆を揮っていられた。子女に恵まれ、長女ビオレータ嬢はブエノス・アイレス文科大学卒業の文学士で、中学校教諭として活躍されつつあり、長男ホルヘ君は法科大学卒業、ブエノス・アイレス銀行勤務、次男オスカル君は法科大学在学中、次女ソフィーア嬢は文科大学で勉学中である。兄弟姉妹、四人揃って最高学府にあることはいずれも頭脳明せきであることを証明している。

数年前より健康を害ね、病床で養生しつつあったが薬石効なく、1954年9月26日他界せられた。ブエノス・アイレス市の各新聞は挙って氏の功績を彰し弔意を表した。尚(社)日本アルゼンチン協会では、氏が日亜親善につくした功績を認め、和文西文表彰状を一幅の掛軸にして遺族に贈った。享年70歳。

ヨシオ・シンヤはこのように、在亜日本人社会の創立に携わり、その会長として在亜日本人の向上発展に尽力した人であった。日本との関係から言えば、日亜文化協会の設立者であり、両国で文化交流のために活躍する。また、日亜両国の新聞社の通信員として、あるいは論説者として文字通り、文化の橋渡しに貢献したのである。冒頭の「五昔の永い間、アルゼンチンで日夜奮闘努力、在亜日本人社会の基礎をかためられた先駆者中の先駆者」であり、「第一人者」であると述べた理由も首肯し得るのである。(つづく)
(弘前学院大学教授)

日ア友好100周年記念絵画コンクール

茨城県猿島郡境町立長田小学校

アルゼンチン共和国と長田小学校との交流には60余年の歴史があります。モンテネグロ氏と野本作兵衛氏との交流から、長田小学校とも交流がはじまりました。(会報第6、9、13、17号参照)

本校では、毎年、6月の第1土曜日に「アルゼンチンの日」の集いを実施しております。アルゼンチン大使館、(社)アルゼンチン協会からお客様をお迎えして、音楽や劇の発表会を実施し、楽しい一時を過ごしています。

平成10年はアルゼンチン共和国と日本の修好100周年ということで、昨年7月にアルゼンチン大使館より絵画コンテスト作品募集がありましたので応募することにしました。

子供達は作品制作に向けて、地図でアルゼンチンの位置を確認したり、図書室でアルゼンチンの自然・文化や生活習慣を調べたり、家族から話を聞いたり、アルゼンチンの日の集いを思い出したりして、作品制作に取り組みました。また、教師も子供達の思いや願いを大切にしながら、作品を仕上げるように支援しました。

そして、10月30日にホセ・R・サンチス・ムニョス駐日大使をはじめ関係者の方々5名に、温かいお心で一枚一枚丁寧に全作品を審査していただきました。その結果、金賞 関 真理奈(2年生)、銀賞 石川 博親、銅賞 秋田 拓哉、佳作 各学年2名が選ばれ、入賞の喜びを長田小学校全員と家族で味わいました。

今後も、アルゼンチン共和国の優れた文化や生活習慣に触れながら、交流をより一層深めていきたいと思います。

会員よりの寄稿

○新生アルゼンチンを訪ねて

荒 尾 保 一

昨年10月半ば、新緑のブエノス・アイレスを訪れた。約20年前亞在日本大使館に参事官として勤務して以来、4回目の訪亜であったが、今回ほど亞国の大変貌を痛感したことは無かった。

丁度、クリントン大統領が訪亜中であったが、同大統領は、亜国をNATO諸国に次ぐ重要同盟国と位置付ける旨を宣言した。メルコスールの中心国として発展著しい亜国の現状を最も良く象徴する出来事である。実際、経済成長率は7%に達し、物価上昇率は1%以下である。

このような成長を支える原動力は、何といっても民営化をバネとする経済の活性化である。電力、製鉄、航空、YPF、鉄道、電話などは勿論、日本で今話題の郵便

も民営である。民営化されていないのは空港や一部の国立銀行などを残すのみである。

私が目にした好例を一つだけ紹介するとすれば、それはハイウェイである。セントロから空港、チグレ、ラプラタなどに向かって有料高速道が縦横に整備されている。なかでもパンアメリカは片側5車線で、料金徴収の際には、車に搭載された電子機器の番号を、センサーが自動的に読み取り、ゲートが自動的に開く。交通渋滞の緩和に大きく役立っている。

こうした民営化は、国家資産の切り売りではないかとの批判もあるが、これによって効率化が進み、サービスも良くなり、インフレの原因であった国庫補助金もなくなるのだから、何ら問題ではないというのが、政府の態度である。

しかし、当然のことだが、改革には大きな痛みも伴う。その最大のものは失業問題である。失業率は今や17%に達し、社会不安も発生しているという。最近行なわれた下院の選挙では、与党は過半数を失った。しかしこれによっても、自由化、民営化の流れは変わらないというのが現地の声である。

このような状況の中で、欧米をはじめ諸外国の資本の進出は誠に顕著である。これに比し我が国の対応は著しく立ち遅れているというのが、現地駐在者の一致した意見だ。食料や鉱物資源に恵まれ、ASEANに次ぐ世界の成長センターとなったこの国との交流の強化は、我が国にとって極めて重要な課題である。幸い、天皇陛下のご訪問や経済ミッションの派遣によってその端緒は切られた。変化極まりない現実を的確に把握し、来世紀を見据えて積極的な対応が節に望まれる。(パシフィックペトロリアムトレーディング株式会社社長)

○ タンゴの国を旅して

大橋雄一

今年は日本・アルゼンチン修好通商条約約100年、両国で盛大な行事が予定されているようですが、私は(友人複数で)一足先に昨年10月にアルゼンチン・ウルグアイ両国を訪問し、そしてタンゴの巨匠達とも逢えて良き旅が出来たと思う。

さて、本来なら亜国の記事を書くのだが本筋なのですが、私は会えてウルグアイの彼の有名なタンゴ歌手フリオ・ソーサに少し触れてみたいと思う。私は余り歌の入った演奏は聞かないのだが、カルロス・ガルデルもそうだが有名な歌手となればその地に行ってみたいのが人情で私はモンテビデオ市から彼が眠るラス・ピエドラス市に車で訪れた。

フリオ・ソーサは32年前(1965年11月26日死去 一部の本では64年1月25日は誤り)にこの世を去っている。市営の墓地に安置されているが土地建物は借り物である。私はフリオ・ソーサ(73歳)さんに逢うことが出来、ここではかき切れないが弟の出世までの話をいろいろしてくれた。

命日には毎年新聞社及び土地の人が法事をしてくれるそうだ。今、市で墓地を立てる話が出ているがお金がないので何時の夢かとお姉さんは涙ぐんで、お金が足りない時は日本の皆さんにご協力を願いしたいと語ってくれた。

私は何時も感じるのだが真実を知る為には現地に行って自分の目、耳で確かめるのが一番、お金と暇があれば、アルゼンチン・ウルグアイにまた行きたい。

(東京・江戸川タンゴクラブ会長)

○タンゴ本場で唄う

高 橋 トク子

10月1日から大橋さん等と訪れたアルゼンチン・ウルグアイの旅はハードなスケジュールでしたが、La Casa de Becho (Cumparsita を作曲した M・Rodriguez) の生家跡に出来たクラブに出演。コルドバではラジオ・テレビに、Bs. As. ではコンサートを。ほとんど毎日ぶっつけ本番ですが、それだけに真剣勝負で良い勉強になりました。そして、方々の楽団から出演を申込まれもう日本に帰りたくない、アルゼンチンに永住したい！なんて思ってしまいました。まだ歌える間は歌いたい！と意欲に燃えております。

(高橋ミュージック・アカデミー代表)

文 化 行 事

◎大阪公演—ミュージカル「エビータ」（故ペロン大統領夫人エバ・ペロン物語）

日 時：1月11日（日）～4月5日（日）（曜日により 13:00 又は 18:30）

会 場：MBS劇場（旧毎日ホール、大阪梅田）

入場料：S席 10,000円、A席 8,000円、B席 5,000円、C席 3,000円

（ウィークディマチネ格安料金有り）

連絡先：劇団四季大阪支社 TEL 06-377-7560

（註：前回は東京で2ヶ月公演（会報第14、15号の特集エビータ参照））

◎六本木カンデラリア 25周年記念パーティー（お世話になりました）

日 時：18:00～24:00

会 場：カンデラリア（日比谷線六本木駅下車 徒歩5分）

特別出演のダンス・グループ：

2月2日（月） 小林太平&江口祐子

3日（火） マルガリータ&サンティアゴ棚田

4日（水） スサーナ原田&カデンシア

5日（木） 成田澄江&タンゴ・アルヘンティーノ

6日（金） アスカ&シング

7日（土） 井上てつひこ&黒猫座

演 奏：バンドネオン ポーチョ・パルメール、ピアノ 大塚典、米山淳子

ギター アンヘル・ミランダ、歌 グローリア米山、高野太郎

会 費：7,000円（オードブル、ワイン他飲み放題、当協会員6,500円）

連絡先：カンデラリア TEL 03-3405-4344（高野太郎、当協会員）

◎アルゼンチン映画「ペテン師」の上映

日 時：2月24日（火）19:00

会 場：草月ホール（TEL 03-3408-9113）

入場料：無料

交 通：銀座線、半蔵門線、青山1丁目駅下車 4番出口徒歩5分

主 催：アルゼンチン共和国大使館

◎清水百合タンゴ・パーティ・コンサート

日 時：3月1日（日）12:45開場

会 場：幡ヶ谷スピアホール（京王線幡ヶ谷駅下車 徒歩1分）

出 演：岩崎法とタンゴコスモス楽団、清水百合の歌と踊り

ジョルジュ高橋のショーとダンスチーム

入場料：前売4,000円（ドリンク付き）（当協会員3,500円）

主催：連絡先：HYG企画 TEL 03-3408-8779（清水宏子、当協会員）

後 援：（社）日本アルゼンチン協会、アルゼンチン共和国大使館

◎ブルーノ＝レオナルド・ゲルバー ピアノリサイタル

日 時：4月2日（木）19:00

会 場：東京芸術劇場

演 奏：ブルーノ・レオナルド・ゲルバー

入場料：S席7,000円、A席5,000円、B席3,500円

（当協会員S席・A席のみ1,000円引き）

交 通：JR、丸の内線、有楽町線、西武、東部線、池袋駅 西口下車徒歩2分

主催：連絡先：梶本音楽事務所 03-3289-9999（カジモトチケットセンター）

お 知 ら せ

◎TANGO (英文－普及版) ～タンゴ・ファン必読

内 容 : PART I タンゴの誕生 (1880－1920)、II ヨーロッパ及びアメリカへの進出期 (1913－1914)、III タンゴの隆盛及びその後 (1920－1990)、IV 永遠のタンゴ

会員特価 : 5,000円 (税、送料込、会報第11号参照、普及版値下げ)

連絡先 : 日本洋書販売配給(株) TEL 03－3208－0182 (大場)

〒169 新宿区大久保3－14－9、郵便振込口座番号00120－0－95014

◎日本アルゼンチン修好100周年記念事業パンフレット等の頒布

日本アルゼンチン修好100周年記念事業組織委員会事務局作成のパンフレット及びポスター並びに同事業参加申請書及び同事業マーク(ロゴ)使用承認申請書をご希望の当協会員に限って頒布致しますので当協会へ電話またはFAXでご連絡願います。

人 事 往 来

(平成9年10月～12月)

1. 来 日

ペドロ・イグナチオ・カルデロン アルゼンチン国立
交響楽団指揮者 10月18日～22日
マリア・アウロラ・ドゥアルデ ブエノス・アイレス州政府
国際協力事業団会長(ドゥアルデ同州知事の妹) 11月4日～13日
フリオ・カセレス経済省調整担当次官 11月6日～15日
ラウル・エストラーダ駐中国大使(第3回気候変動枠組条約締約国会議議長)
12月1日～10日
マリア・フリア・アルソガライ経済省天然資源・持続開発担当次官
(同会議出席) 同

玉那霸 義明 在アルゼンチン沖縄県人連合会会長 11月20日～1月30日

2. 在京アルゼンチン大使館 人事異動

カルロス・エルネスト・マンティガ総領事 12月9日
(フローレス前総領事は帰国)

あ と が き

次号(20号)は4月中旬予定です。会員各位の投稿、ご意見をお待ちしています。